



Tokyo Tech

ニューノーマルな時代の知財制度の活用方法

東京工業大学 オープンイノベーション機構

大嶋洋一

oshima@sangaku.titech.ac.jp

令和2年9月11日（金）

第80回応用物理学会秋季技術講演会

目次

- はじめに
- COVID-19が与えた社会変化
- ニューノーマルな時代にどのような市場に投資が集中するのか
- ニューノーマルな時代にどのような技術が求められるのか
- ニューノーマルな時代にどのようなビジネスモデルが求められるのか
- ニューノーマル時代に適した知財活用方法
- まとめ

世界の名目GDPランキング

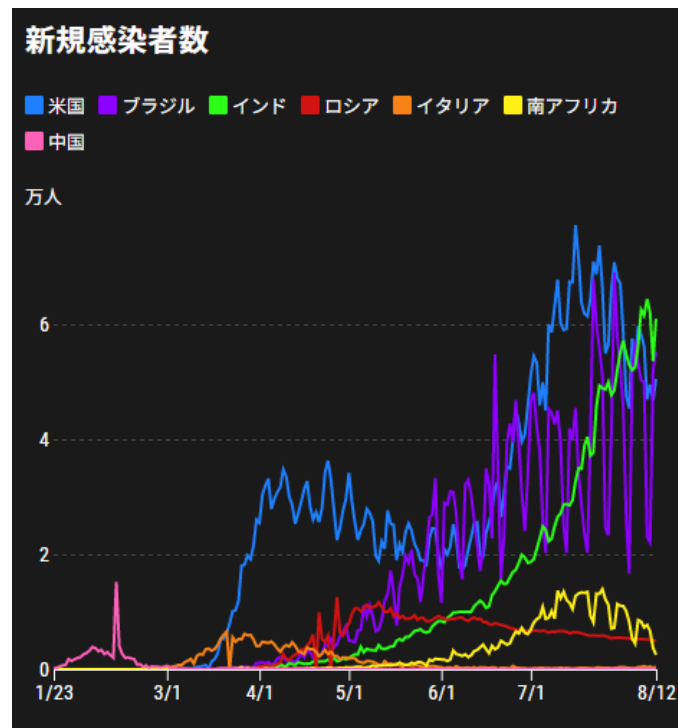
Country/Area	Unit	Gross Domestic Product (GDP)
1 United States	US\$	20,580,223,000,000
2 China, People's Republic of	US\$	13,608,151,864,732
3 Japan	US\$	4,971,323,079,772
4 Germany	US\$	3,949,548,833,953
5 South America	US\$	3,701,989,162,959
6 United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland	US\$	2,855,296,731,522
7 India	US\$	2,779,351,532,560
8 France	US\$	2,778,892,247,475
9 Italy	US\$	2,084,882,364,034
10 Brazil	US\$	1,868,613,092,297

出典：国連

<https://unstats.un.org/unsd/snaama/index>

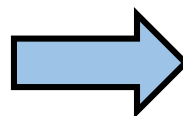
世界経済に大きな影響を与えるのは**米国と中国**（左表）、感染状況は**中国は沈静化し、米国も山を越えた**ように見える（右グラフ）

COVID-19の新規感染者推移



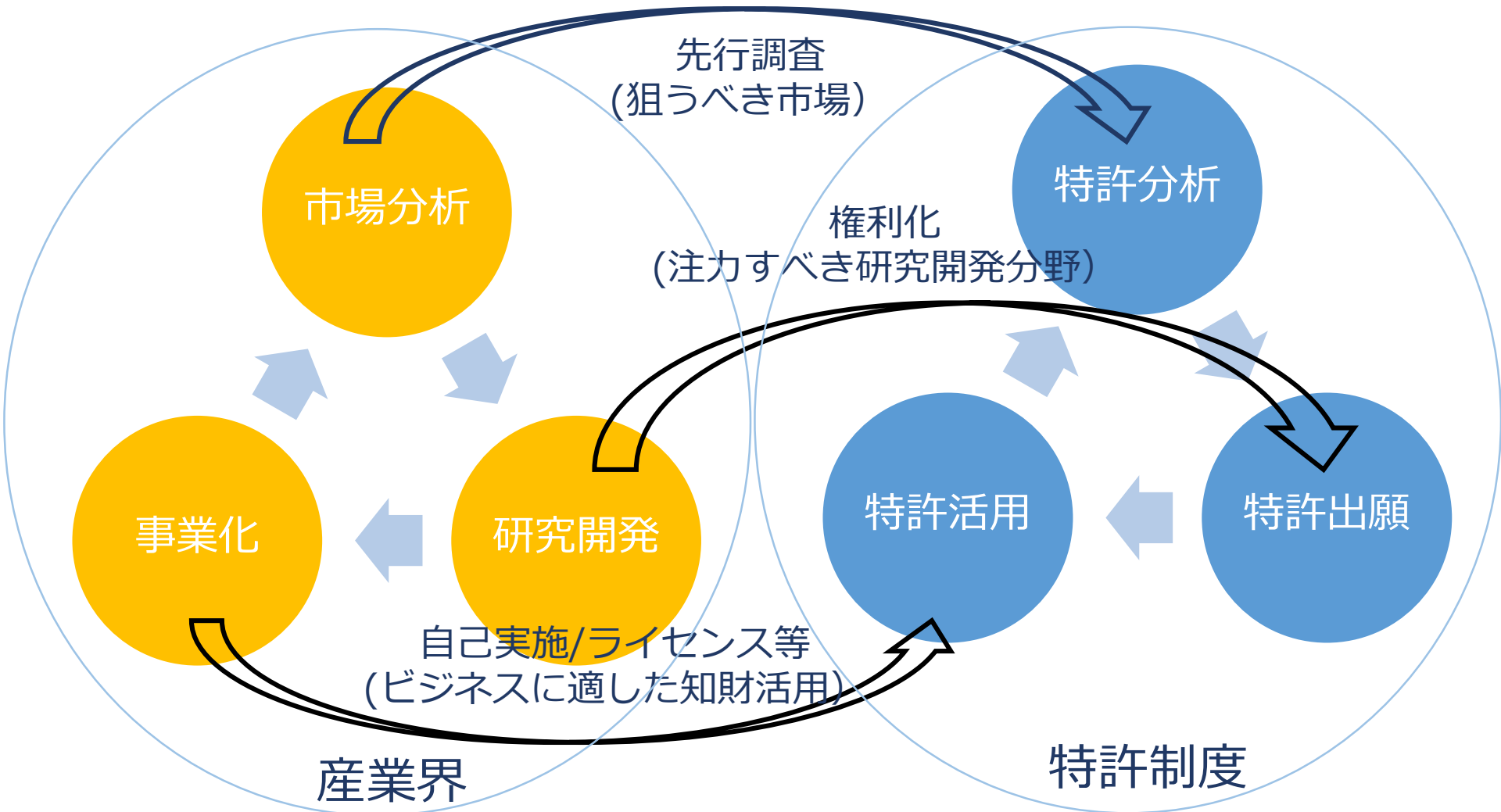
出典：日本経済新聞

<https://vdata.nikkei.com/newsgraphics/coronavirus-chart-list/>



世界経済は**ニューノーマルに移行し再起動を開始**している

特許制度と産業界



特許制度は、産業活動と密接にリンク

COVID-19が与えた社会変化

ニューノーマルな時代に...

知りたい点

社会変化点

↑

合理的分析

↓

どのような市場に投資が注力されるのか

どのような技術が求められるのか

どのようなビジネスモデルが適しているのか

感染リスクとの併存を常時意識させる点

人の動きを制限・監視した点

全世界で共通した課題である点

感染リスクを低減するための習慣、環境整備の向上

時間と空間に対する影響が持続的で大きい

世界レベルで相互補助のコンセンサスの形成

安全性確保のためのインフラ整備に対する投資活動が加速

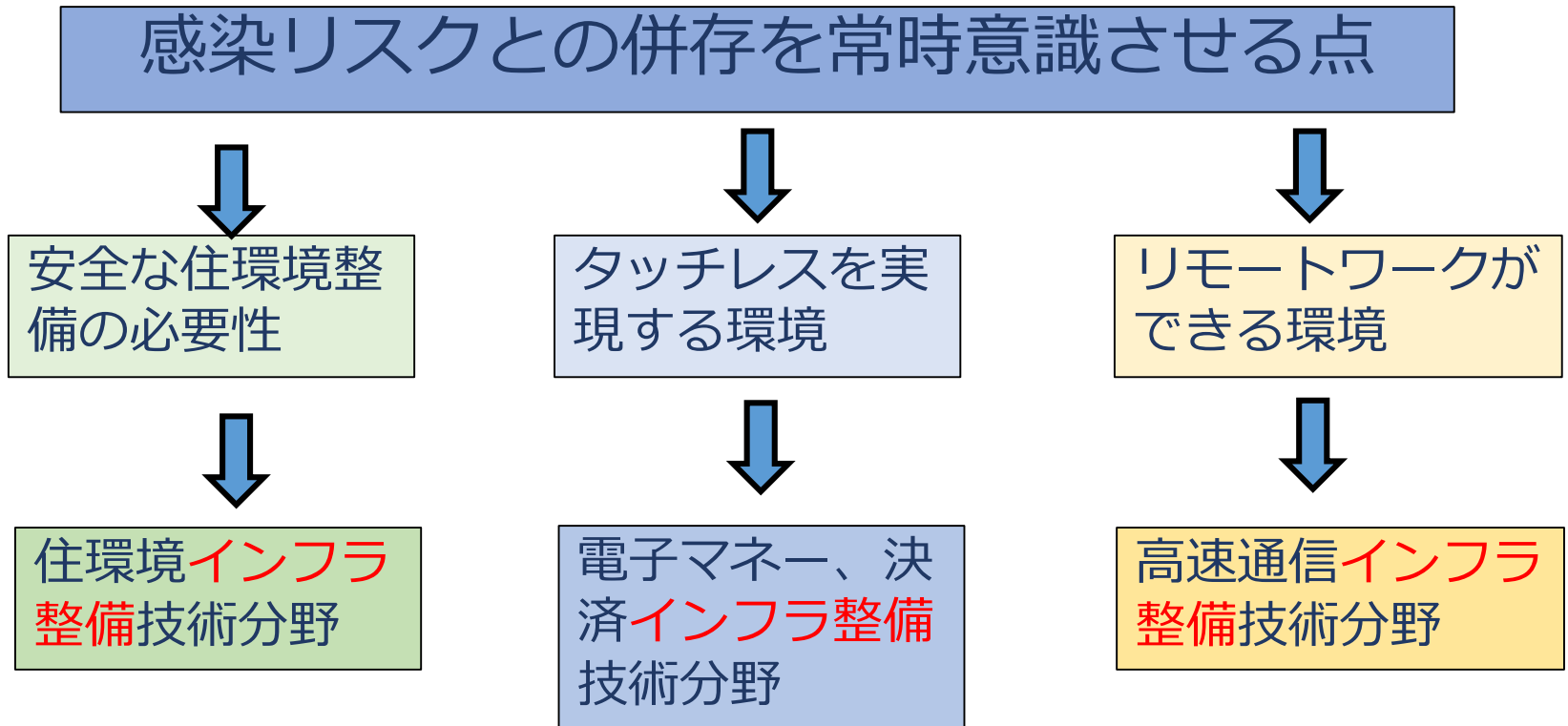
時間と空間に関する研究開発が求められる

ソーシャル・オープンイノベーションの機運が高まる

COVID-19の与えた影響を分析して成長する分野、手法を推測する

感染リスクとの併存を常時意識させる点

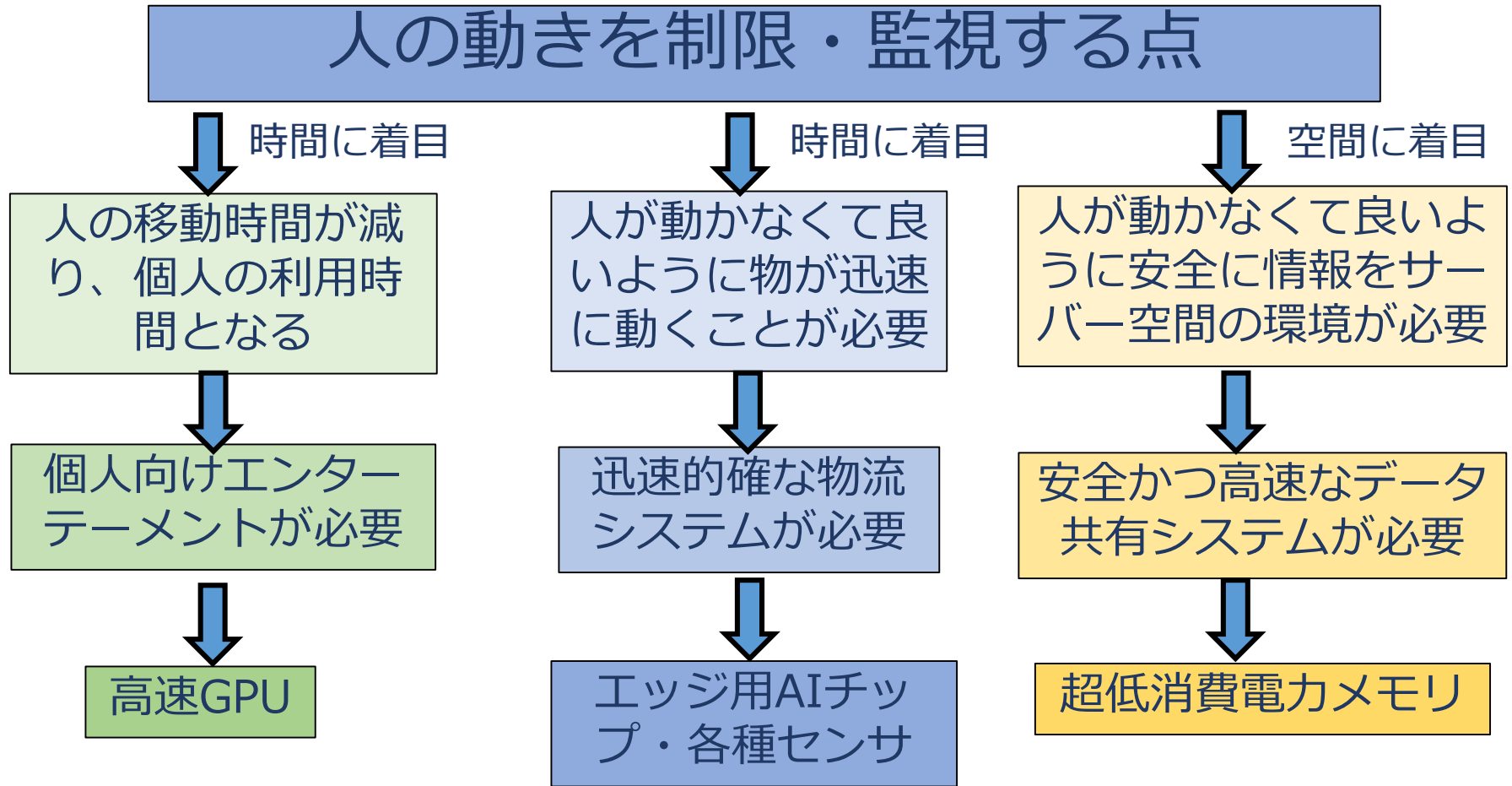
どのような市場に投資が注力されるのか



ニューノーマル時代を支えるために各方面で新たなインフラ整備が必要となる（∵小手先の流行の問題ではないためインフラからの整備が必要となる。）

人の動きを制限・監視する点

どのような技術が求められるのか



ニューノーマル時代を支えるのは半導体集積回路技術

全世界で共通した課題である点

新型コロナウイルス感染防止は全世界で共通した課題である点



皆で力を併せて、現状の困難を乗り越えようという姿勢



より一層、自前主義からオープンイノベーションへシフト



知財の活用もオープンイノベーションに適した機能を追加



COVID-19は、改めて、世界は繋がっていることを思い知らせた社会現象

ニューノーマル時代において知財は、独占権行使をするためのツールから、パートナー作りのためのツールへとシフトする

知財制度の活用方法

オープンイノベーションに適した知財制度の活用方法

- (1) 他人に利用してもらうことを前提としたライセンス宣言
付き特許明細書
⇒明細書作成の場面
- (2) 社会実装を優先したフリーレント付のライセンス契約
⇒ライセンス契約の場面
- (3) 公益性を重視した特許無償開放活動
⇒緊急事態時の場面

ニューノーマル時代において特許はより使われるために進化した機能を追加していく

ライセンス宣言付き特許明細書

排他的独占権行使のための特許
(「自分だけのもの」としたい場合)

特許公報

- ・特許は「武器」という考え方
- ・技術情報は謙抑的



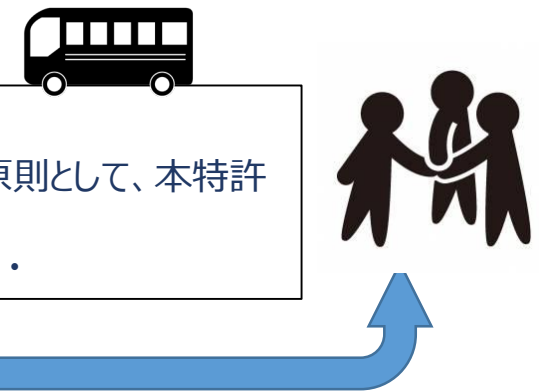
仲間づくりのための特許
(「仲間が欲しい」場合)

特許公報
【ライセンス宣言】
…

- ・特許は「公共材（皆で使う物）」という考え方

【ライセンス宣言】
本特許出願が特許成立時には、利用を希望する者に原則として、本特許をライセンスします。……一般的な条件は……
ライセンスを希望する者は、下記までご連絡ください。…

- ・技術情報は開放的

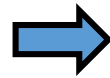


出典：大嶋洋一, 「イノベーションを引き起こす特許心得」, 応用物理
2020年 89巻 8号 p. 451-455

特許は仲間作りのためのツールとしての機能が強化される

特許無償開放活動

COVID-19対策のために各機関、大学が特許無償開放活動を展開



公益のために特許権の独占的排他権としての一面を放棄する活動

【代表的な特許無償活動】

- Open COVID Pledge <https://opencovidpledge.org/>
⇒Intel, IBM, Facebook等が参画
- 知的財産に関する新型コロナウイルス感染症対策支援宣言プロジェクト <https://www.gckyoto.com/covid19>
⇒キャノン、ソニー、トヨタ等が参画
- JST <https://www.jst.go.jp/chizai/openpatent.html>
- 東工大 「お役に立てればプロジェクト」
<https://www.titech.ac.jp/news/2020/046883.html>
- 京都大学
<https://www.saci.kyoto-u.ac.jp/topics/news/11172.html>

- ニューノーマルな時代は、安全性を確保するという意味で、一段踏み込んだ環境整備が必要であり、そのためのインフラ投資が進む。
- 研究開発の狙い目は、人が動きにくいという事情を反映し、時間と空間に対する改善度の大きな技術が注目される。
- ニューノーマルな時代は、より一層パートナーとの連携を通じて研究開発成果を社会実装するために、知財制度は仲間づくりのツールとして指向される。